

縄南中通信



平成29年 5月 1日 発行
2017年度 第2号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校
校長 日比野功

縄手南(小中一貫)施設分離型義務教育学校(平成31年度開校予定)教育理念

「縄南道」による二十歳の成人式に

当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

「意識」の高い「行動」が「習慣」となり「結果」に繋がる！

新しい年度がスタートし、入学式・始業式等が過ぎて約3週間となります。8年生、9年生は昨年度から引き続き意識していることをさらにレベルアップする目標をたて、新入生の7年生は小学校6年生の時に10日間ほど中学校登校を経験していたこともあって、全体としては比較的スムーズな今年度の「縄南道」のスタートとなりました。いよいよ5月を迎え、少し暑い日もあり汗ばむこともある季節になりました。スタートダッシュの疲れも見え始める時期でもあります。世間では「三日坊主」という言葉や、「四月病・五月病」といった言葉があるように、少し疲れが出だし、緊張が少し薄れてくる頃が、自分自身との最初の勝負の時です。この最初の勝負をどう乗り切るか、どういうふうに乗り越えるかがポイントとなるのですが、それには具体的なイメージが必要です。「縄南道」では、「日本一」の学校を目標としています。「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」の「返事」「あいさつ」「声」「ダッシュ」という一つ一つのことにとどれだけこだわっているか、「勝因」である「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」が常に意識の中にあるかどうかと自分に問うてみてください。意識の中になれば、「いい加減」「適当」「だいたい」という「敗因」に、自分の行動が流されていることとなります。「日本一」の学校の生徒はどんな「返事」をしているのか、「日本一」の学校の生徒はどんな様子で「あいさつ」をしているのか、「日本一」の学校はどんな活気のある「声」を出しているのか、またどんな言葉を常に「声」にしているのか、「日本一」の学校の生徒はどれくらい素早く行動しているのか、「ダッシュ」にこだわっているのかと想像してみてください。「縄南道」が目ざす学校は「日本一」ですから、その想像した様子を超える行動を実行しなければなりません。これが具体的なイメージです。こうして常に「意識」の高い「行動」をしていると、その「行動」が当たり前となり自らの「習慣」となります。素振りをするという練習の際に、ただバットを振るだけではなく、常にコースや球種、相手投手が右投げなのか左投げなのかといったことまで意識して素振りという練習をするのと同じです。常に「意識」した練習をし、それが当たりの「習慣」となっていれば、同じ時間の意識の薄い練習をするのとは、練習の質が変わるのは当たり前です。つまり、「意識」は「行動」を変革し、そして「習慣」を変革し、「結果」に繋がるのです。今は4月にスタートした新しい生活、新しい環境に少し慣れてきて、同時に疲れも出てくる時期です。5月中旬には第一回定期テストがあり、9年生は下旬に修学旅行も控えその準備もあわただしくなります。6月中旬には体育祭も控えていますからその練習も始まります。「意識」の薄い毎日を送っていると、もったいない時間がどんどん過ぎていきます。慣れもあり、疲れもあり、うまくいかない時も当然あることを自分自身で意識し、それでも「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

を全力で実行しながら自分自身と勝負する時間を大切にしてください。とりあえず、「四月病・五月病」の予防のために、「日本一」の行動を具体的にイメージし、それ以上の行動を意識して積み上げて下さい。「縄南道」は「日本一」を目ざしています。「言い訳は進歩の最大の敵」です。自分自身との勝負に勝利して下さい。

あいさつとは「相手の心を開くもの」です。

「縄南道」では「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」をモットーとしていますが、この「！」には意味があります。「返事」「あいさつ」「声」「ダッシュ」はそれぞれ「心」や「意志」がこもっていないければなりません。その一つ一つにも大きな意味がありますので、その「意志」を示すものが「！」です。そして、「返事！」「あいさつ！」「声！」「ダッシュ！」がすべて備わった「意志」のもとに実行し、「人格形成」を目ざすことが「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」ですので、最後の「！」は「返事！あいさつ！声！ダッシュ！」に対しての「！」という意味があります。それぞれには「心」や「意志」が備わっていないければ意味のないことです。ただ形としてやっているだけでは「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」ではありません。例えば、来客者に対して行う「あいさつ」は、何かの用事で学校に来て下さっている方々に対して、「ありがとうございます。」というような気持ちをこめての「あいさつ」です。当然、そうした気持ちのこもった「あいさつ」を受けた方々は心が開かれて気持ちよくなるはずですが、適当なあいさつは相手の方の気分を害することもあります。また、授業での「お願いします。」「ありがとうございました。」という「あいさつ」も同様です。相手の心を開いてこそ「あいさつ」ですので、日本一「心」のこもった「あいさつ」が実行できる学校であれば良いと願っています。

「感心です。いい取組ですなあ。」と7年生枚岡研修でお言葉をいただきました。

4月14日（金）、7年生は枚岡神社の広間をお借りして「縄南道研修」を実施しました。昨年までは1泊2日で信貴山に出向いて行っていた研修を、今年度から1日に短縮して枚岡神社をお借りして実施することとしました。この研修の大きな目的は、新入生が小学校から中学校に入学して、これまでの小学校生活とは違う中学校生活についてのいろいろな事柄を知ることです。多くの時間は先生の話聞く、読書に集中するといったことを中心に実施してきました。最近では中学校生活のあり方を小学生の時に知る機会もあり、体験的な中学校登校も経験してきた新入生ですので、今年からは時間を短縮した研修としました。枚岡神社では先生だけではなく、宮司さんをはじめとした方々のお話を聞く時間もありましたが、7年生が全体でもしっかりと声を出し、あいさつできることに感心しておられました。枚岡神社ではキャリア体験学習をはじめ多くの学生が神社を訪れるそうですが、なかなかしっかりとあいさつができる学生が少なくなっていると話されていました。縄手南の7年生は、入学して間もない時期に、「このような取り組みをされ、いいことですね。しかも生徒さんが前向きですね。」と話されていました。なぜ入学して間もない時期に、こうした研修を計画しているのかという意義をしっかりと「意識」し、今後も進化させていきたいと感じました。



枚岡神社広間での研修の様子

クラブ等の主な記録

パソコン検定（P検） 3級合格 西岡歩美(9年)

※平成31年度義務教育学校開校に向け中学1年・2年・3年を7年・8年・9年と表記しています。